

還曆を賀す
(松口月城)

六十の生涯 徳と 仁と

醇高の風格 万人に 親しむ

宜なる哉 積善 余慶 在り

自適 悠々 華甲の 春

六十生涯徳與仁 醇高風格萬人親
宜哉積善余慶在 自適悠々華甲春

解説 還曆を祝う詩。

語釈 ※還曆Ⅱ数え年六十一歳の称。六十年で再び生まれ
た年の干支に還るからいう。※醇高Ⅱ人情・風俗などの高
いこと。※宜Ⅱもつともであること。なるほど。※積善Ⅱ
善行を積み重ねること。※余慶Ⅱ先代の功德の報いとして
子孫の上に来る吉事。※華甲Ⅱ数え年六十一歳の称。(華の
字を分解すれば六つの十と一となる。)甲は甲子意。

通釈 還曆までの生涯は理想を実現していく能力と思いや
りであった。また万人に親生まれ、善行を積んだことはこ
れから先も吉事が訪れ、そして、悠々自適の還曆を迎える
春となるであろう。